

2007 年度

科目名 日本文学史 I	対象学科・学年 文学部日文2 回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 古今集以前の日本文学史		
授業の概要と目標 仮名文字以前の文学の流れを、各作品の内部構造を探りつつたどりま。対象とするのは、文字を持たなかった日本文学が外来文化との出会いと摩擦の中で、記載文芸という新しい様式を生み出した時代です。その葛藤と達成の過程を、実際の作品に即して解説していきます。		
評価方法 講義への出席状況 (40%)、課題の提出状況 (40%)、課題に取り組む姿勢 (20%) 等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 講義時に配布する、教材・資料を用います。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 この講義では、「歌い、語り、聞く」時代から「書記し、読む」時代へ。日本文化史上、非常に大きな転換点だった時代を扱います。文字を持たなかった日本文化が、漢字と出会うことで何を獲得し、どう展開していったのか、仮名文字以前の文献を対象とすることで確かめてみたいと考えています。対象とする作品は以下の通りです。 1. 口承文芸と漢字の伝来、記載の始まり (1 回) 2. 古事記の構造と成立 (2~4 回) 3. 日本書紀の構造と成立 (5~6 回) 4. 萬葉集の構造と成立 (7~11 回) 5. 風土記の構造と成立 (12~13 回) 6. 氏族伝承文芸の展開 (14 回) 7. 国風暗黒時代の文学 (15 回) 必要に応じて、遣唐使をはじめとする遣外使や渡来人達のもたらした、外来文化による社会変化や制度・文化の変遷が文学に与えた影響等についてもお話しする予定です。		